

# 「地域活動支持力」が継続した地域活動に果たす役割

伊藤嘉奈子\* 天野邦彦\*\* 岸田弘之\*\*\*

## 1. はじめに

行政だけでは行き届かない身近な水辺における環境改善や良好な環境の維持管理などを実現するために、地域住民などによる主体的な活動への期待は大きい。こういった地域活動は増加傾向にあるものの、地域に密着した継続的な活動が広く普及しているとは言い難い。

そこで、継続した地域活動が行われるための必要事項を明らかにすることを目的として、地域活動が継続して行われている事例を対象にヒアリング調査を行うとともに、住民アンケート調査による住民の意識や行動の分析や、地域活動の展開の分析を行った。

その結果、継続した地域活動のためには、「地域における行動規範」「地域内での信頼」「地域に対する愛着」「地域内外での人との付き合い」といった地域住民の持つ意識や行動が重要であることが明らかになった。また、これら住民の意識や行動は、地域活動を受け入れて支えるような力となっていることから、住民の意識や行動の特性を反映した「地域活動支持力」という概念の導入を提案した。これを用いることで地域の特性と地域活動との関係について説明できることがわかった。

本報文は、以上の研究成果の概要を紹介するものである（詳細は国土技術政策総合研究所プロジェクト研究報告<sup>1)</sup>参照）。

## 2. 調査の方法

### 2.1 ヒアリング調査

調査は5年以上継続して活動が行われている事例を対象に行った（表-1）。ヒアリング対象者は、地域活動団体の代表や参加者、地方自治体の担当職員である。ヒアリング内容は、活動の経緯や活動内容、活動の成果、活動への参加者や住民の意識である。この調査により、継続した地域活動に共通している点を定性的に抽出した。

### 2.2 アンケート調査

ヒアリング調査の結果、地域活動が継続して行われている事例では、活動団体が住民の意識や行動を十分に把握しているという共通点が見られたことから、住民の意識や行動に着目し、さらに詳細に検討するためにアンケート調査を行った。アンケートは、静岡県三島市40町の住民（20歳以上）のうち無作為抽出した各町100名を対象に、計4000通を郵送配布・郵送回収した（調査期間2007年12月～2008年1月、回収率27%）。調査項目は、地域活動への参加頻度（Q1）と住民の意識や行動に関する項目（Q2～Q14、ヒアリング調査や既存調査<sup>2)</sup>を参考に設定）である（表-2）。

### 2.3 アンケート調査結果の定量化

後述する因子分析と相関分析のために、アンケート調査結果を町別に定量化した。具体的には、Q1は参加頻度に応じて係数換算し（「所属しており、ほぼ毎回参加する(係数1)」「所属しており時々参加する(0.75)」「所属しているが、あまり参加しない(0.5)」「所属していないが、参加して

表-1 ヒアリング対象事例

No.	地域	活動
①	山口県山口市	「榎野川の源流を守る会」による環境保全活動
②	東京都墨田区	「一言会」による雨水利用防災まちづくり活動
③	岐阜県郡上市	郡上八幡の用水保全活動
④	静岡県三島市	「グラウンドワーク三島」による水辺環境再生・保全活動
⑤	徳島県徳島市	「新町川を守る会」による環境保全・まちづくり活動
⑥	神奈川県横浜市	江川せせらぎ緑道「水辺愛護会」による維持管理活動

表-2 アンケート調査項目

No.	アンケート調査項目	項目名(略称)
Q1	自治会による地域活動に参加していますか NPO等による地域活動に参加していますか	
Q2	あなたは地方選挙の時に必ず投票に行きますか	選挙投票
Q3	あなたはこれからも住んでいる地域に住み続けたいと思いますか	定住志向
Q4	あなたの住んでいる地域では、地域全体で改善すべき課題(皆が悩んでいることや困っていること等)があると思いますか	地域の課題
Q5	あなたは住んでいるところの近くで、自然(川や水辺、樹林、草地など)にふれあえる場所に良く行きますか	身の回りの自然
Q6	あなたの住んでいる地域の治安についてどう思いますか	地域の治安
Q7	あなたの住んでいる地域では、地震などの災害があったとき、困っていれば近所の人々が助けてくれると思いますか	災害時の助け合い
Q8	あなたは三島市を信頼できると思いますか	行政への信頼感
Q9	あなたは近所の道路や公園、水辺などに、もしごみが落ちていたら拾いますか	地域のごみ
Q10	あなたは家の近くで人に出会ったら挨拶をしますか	挨拶の習慣
Q11	あなたは家の近くで自動車や自転車を運転したり道を歩いたりするときに、交通マナーに気を配っていますか	交通マナー
Q12	あなたは地域の回覧板について、きちんと目を通して次に回していますか	回覧板
Q13	あなたは隣近所の人と日頃からよく付き合っていますか	隣近所との付き合い
Q14	あなたは町外の人とよく付き合っていますか	町外の人との付き合い

みたい(0.25)」「所属していないし、参加してみたいとも思わない(0)」、町毎に平均値を算出した。Q2～Q14も同様に係数換算し、町毎に平均値を算出した。

2.4 因子分析

住民の意識や行動について類似する項目を整理し、各回答の根底にある住民の意識や行動の特性を明らかにするために、Q2～14を目的変数とした因子分析を行って、因子負荷量を算出し、潜在因子を抽出した(最尤法・プロマックス回転、因子分析の詳細は参考文献参照<sup>1),3)</sup>)。潜在因子は「住民の意識や行動の特性」を表すものであると考えられる。なお、分析には2.3で算出した町毎の平均値を用いた。

2.5 相関分析

住民の意識や行動と地域活動との関係を分析するために、潜在因子の大きさを表す因子得点(因子分析により算出している)と地域活動への参加頻度(Q1)との相関係数(スピアマンの順位相関係数)を算出した。なお、分析には2.3で算出した町毎の平均値を用いた。

2.6 地域活動の展開のパターンに関する分析

アンケート調査結果を踏まえて、ヒアリング調査対象事例の活動の展開を①きっかけ、②実施、③継続、に区分して時系列で分析し、共通するパターンを抽出した。

3. 結果と考察

3.1 継続した地域活動に共通している点の抽出

ヒアリング対象事例は、いずれも活動の場(水辺など)が住民や参加者によって良好に保たれており、地域活動で課題となりがちな維持管理が継続して行われていた(写真-1)。

更に、活動主体である地域活動団体は、住民の意識や人的ネットワークをよく知っており、住民

と積極的にコミュニケーションを図って地域の実情を把握するなど、住民の意識や行動を把握し、それを踏まえた活動を行っているという共通点が見られた。こうした活動が行われることで、住民も活動に理解を示し、あるいは積極的に参加・協力していると考えられた(表-3)。

3.2 アンケート調査結果

3.2.1 因子分析結果

因子分析により算出された因子負荷量(表-4)は、値が大きいほど、潜在因子がその調査項目に及ぼす影響の度合いが大きいことを表す。このことから、抽出された4つの潜在因子(地域住民の意識や行動の特性)は、以下のように「地域における行動規範」「地域内での信頼」「地域に対する愛着」「地域内外での人との付き合い」を表すと解釈できた(表-4および以下の調査項目名は略称、略称の内容は表-2参照)。

(1) 第1因子「地域における行動規範」

「挨拶の習慣」「地域の課題」「交通マナー」「回覧板」の因子負荷量が大きく、地域はこうあ

表-3 地域活動団体と住民の良好な関係

※事例No.は表-1と同様

事例No.	地域の特性を踏まえた活動の実施例	地域住民による活動への理解・参加例
①	課題認識を持った中心的住民が地域内の集まりなどで働きかける	元々自治意識の高い地域で、住民が地域内の意見をすぐに統一し活動を支援した
②	町内会の中心的なメンバーと周辺住民による自主的な活動だが、活動は地域全体を対象とし、また活動への参加を働きかけることで地域内への周知や参加者の増加のための努力を行う	町内会の中心的なメンバーによる活動であることを地域住民が認識し、日常的な活動を通じてメンバーを信頼しており、活動に対して協力的である
③	町内会単位で水路維持の活動を実施する(参加は強制しない)	町内で水路維持は生活の一部となっている参加しない人もまちを汚さないという意識は持っている
④	住民とのコミュニケーションを頻繁に取り、ワークショップや勉強会を何度も開催し、地域の課題ややるべきことを整理する	頻繁なコミュニケーションによりNPOが地域で信頼されるようになった勉強会などにより地域の長所や課題を認識し、整備や維持管理に主体的に参加するようになった
⑤	清掃活動・イベント活動・周遊船の運航・森林保全活動など多岐に渡る活動を実施する(活動は強制しない)	活動への積極的な参加、近隣の清掃のみ参加、イベントのみ参加など、各住民が自らのスタイルに合う参加を行っている
⑥	町内の有志が自らが持つネットワークを用いて参加者を少しずつ増やし、企業も巻き込み活動を実施し続ける	活動が実施されるうちに企業の参加も促進され、地域の水辺に対する認識も変化し、水辺にごみを捨てる人が減った

表-4 因子負荷量

No.	調査項目(略称)	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
Q10	挨拶の習慣	0.956	0.203	-0.060	-0.200
Q4	地域の課題	0.625	-0.072	0.062	0.220
Q11	交通マナー	0.526	-0.072	0.268	0.069
Q12	回覧板	0.433	0.030	-0.074	0.281
Q7	災害時の助け合い	0.173	0.884	-0.001	-0.041
Q6	地域の治安	-0.063	0.615	0.105	-0.010
Q8	行政への信頼感	-0.292	0.540	0.169	-0.102
Q3	定住志向	-0.115	0.155	0.683	0.187
Q5	身の回りの自然	0.069	0.111	0.658	-0.109
Q2	選挙投票	0.207	-0.050	0.654	0.097
Q13	隣近所との付き合い	-0.059	0.387	-0.246	0.710
Q14	町外の人との付き合い	0.194	-0.124	0.059	0.679
Q9	地域のごみ	0.093	-0.116	0.214	0.545

※各調査項目の内容は表-2参照



GW三島の水辺環境保全活動



江川せせらぎ緑道・維持管理活動

写真-1 調査対象事例の活動対象の場(例)

るべき、地域ではこう行動すべき、やるべきことはきちんとやる、といった意識や行動を表す項目であり、「地域における行動規範」と解釈できる。

(2) 第2因子「地域内での信頼」

「災害時の助け合い」「地域の治安」「行政への信頼感」の因子負荷量が大きいことから「地域内での信頼」を表すと解釈できる。

(3) 第3因子「地域に対する愛着」

「定住志向」「身の回りの自然」「選挙投票」の因子負荷量が大きい。いずれも地域に対して好意的で主体的な意識や行動を表す項目であることから、「地域に対する愛着」を表すと解釈できる。

(4) 第4因子「地域内外での人との付き合い」

「隣近所との付き合い」「町外の人との付き合い」「地域のごみ」の因子負荷量が大きいことから、「地域内外での人との付き合い」を表す因子であると解釈できる。「地域のごみ」(近所でごみを拾うか)については、人付き合いによって近隣に対しても自宅と同様の所有意識を持つようになった結果、生まれる行動であるとも考えられる。このことから「地域内外での人との付き合い」の影響を受けていると考えられる。

3.2.2 相関分析結果

相関分析により算出される相関係数(表-5)は、値が大きいほど相互の関連が強いことを表す。自治会への参加頻度が高い住民は「地域における行動規範」が高く、一方、NPO活動への参加頻度が高い住民は、「地域に対する愛着」を持ち、「地域内外での人との付き合い」が活発な傾向にある。

すなわち、地域活動と、「地域における行動規範」「地域内での信頼」「地域に対する愛着」「地域内外での人との付き合い」のような地域住民の意識や行動とに関連があることが把握できた。

3.3 地域活動の展開のパターンに関する分析結果

ヒアリング調査対象事例の活動の展開を時系列で整理した結果(表-6)、以下のような共通点が見られた。なお、調査対象事例は、いずれもNPO活動に分類される活動を実施している。

(1) きっかけ

一部住民の「地域に対する愛着」から生まれる地域や水辺への危機意識が活動開始のきっかけとなっている。また、住民が持つ、あるいは生み出した「地域内外での人との付き合い」によって活動に協力する人を集め、活動を開始している。

表-5 相関係数

	行動規範	信頼	愛着	付き合い
自治会活動	0.480**	0.089	-0.364*	0.091
NPO活動	-0.326*	0.270*	0.602**	0.378**

※\*\*は1%水準、\*は5%水準で有意な相関が見られた

表-6 地域活動の展開例

活動の展開	「新町川を守る会」による環境保全・まちづくり活動	江川せせらぎ緑道「水辺愛護会」による維持管理活動
きっかけ	新町川水際公園整備事業(S61-H1)後、地元マスメディアと中心市街地の商店街による水際公園完成イベントとしていっかだレースが行われた。その際、どのアングルから川を撮影しても写ってしまう多くのゴミ、ヘドロに危機意識を持った商店主と、彼の付き合い(趣味や仕事など)を通じて集まった有志10名程度で川での清掃活動を始めた。	下水道事業(S60年代)により、住民との意見交換を経て、江川せせらぎ緑道が完成した(H8)。しかし、行政による緑道の清掃は十分でなく、また、水路が工場の裏手にあることから廃棄物も多く捨てられていた。このことに危機感を感じた当時の町内会長(下水道事業の意見交換の際に要望等を出していた)が、周辺住民何名かに声を掛けて清掃活動を始めた。
実施	中心的な住民による月2回の河川清掃やイベントが行われた。清掃活動は、ゴミを捨てる人がいても黙って拾う、年数回ではなく月2回、参加人数が少なくても行うといった形で継続的に実施した。すると、近隣住民が街路樹への水やりや水を貸してくれるようになるなど、少しずつ活動への参加・協力が得られるようになった。	基本的な清掃活動は月1回だが、中心となって活動する住民が水路が汚れてきたと感じたらその都度清掃を行う。中心となって活動する住民の人付き合いを通じて、周辺住民への参加の呼びかけも行っている(強制しない)。活動を続け、声を掛けることで周辺工場の参加も得られるようになった。
継続(現状)	清掃活動や川でのイベントを中心に多様な活動が行われている。例えば、河川清掃が流域に対する課題認識を生み、上流での森林保全・交流活動が行われるようになった。多くの活動に参加する人、一部活動にのみ参加する人など、参加形態は様々である。活動開始から7・8年した頃から川にゴミを捨てる人はいなくなったとのことである。	清掃活動のほか、学校との協働による植栽や桜祭りイベントも開催している。活動が地元マスメディアや区の広報で取り上げられ、より多くの人知られるようになり、水路を散策したりイベントに参加する住民が増えた。住民のマナーが向上し、水路にゴミが捨てられなくなったということである。

(2) 実施

一部住民による活動に触発された、あるいは「付き合い」を通じて声を掛けられた周辺住民が活動に参加・協力するようになる。このような周辺住民は、元来より「地域に対する愛着」が高く、「人との付き合い」が活発である(表-1の事例①②③)か、活動の様子を日常的に見ることで地域や活動の場への「愛着」や活動に対する「信頼」が高まったと考えられる(表-1の事例④⑤⑥)。

(3) 継続

継続した活動を目にしたたり、マスメディア等を通じて活動の存在を知ること、地域住民全体の地域や活動の場への「愛着」、活動に対する「信頼」が高まったと見られる(表-1の事例②⑤⑥)。

また、地域住民に応じた地域活動が行われることで、各住民がそれぞれ持つ「愛着」「人との付き合い」「信頼」の大きさに応じて、活動を受け入れ、参加・協力するようになる。そして地域全体が何らかの形で地域活動を支えることで、活動が継続して行われていると総括できた。

以上から、活動のきっかけ・実施・継続に、住民の意識や行動、それに応じた活動主体による働きかけが重要な役割を果たしていることがわかった。また、住民の意識や行動は、地域活動が行わ

れることで高まり、高まった意識や行動が更なる地域活動に繋がるなど、活動と住民の両者が関連し合うことで地域活動が継続して行われると考えられる。

### 3.4 「地域活動支持力」の提案

以上の分析結果から、「地域内における行動規範」「地域内での信頼」「地域に対する愛着」「地域内外での人との付き合い」のような地域住民の意識や行動は、地域活動を受け入れて支えるような力となっており、「地域活動支持力」と呼べるものであると考えられる。この地域活動支持力と地域活動は以下のような関係にあると考えられる。

ある地域内で活動を実施する活動主体が、地域活動支持力に応じた働きかけを行い、地域住民が各々の持つ地域活動支持力に応じて活動を受け入れて支えることで、地域住民を巻き込んだ活動が実施される。さらに、この活動によって地域全体の地域活動支持力が高まることにより、地域活動がさらに継続・発展して行われているという関係になっていることがわかった。このように、両者が良好に関連し合うことで継続した地域活動が達成されると考えられる（図-1）。

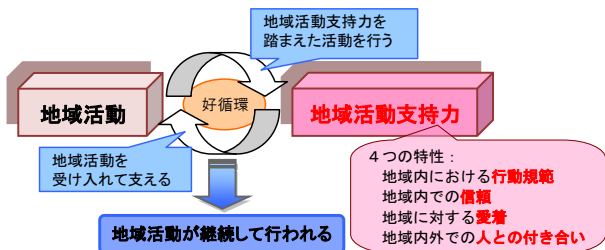


図-1 地域活動と地域活動支持力の関係

## 4. まとめ

因子分析と地域活動の展開のパターンに関する分析から、地域活動に重要な役割を果たす地域住民の意識や行動は、「地域内における行動規範」「地域内での信頼」「地域に対する愛着」「地域内外

外での人との付き合い」で表されることがわかった。さらに、これらの意識や行動は「地域活動支持力」と呼べるものであり、地域活動を実施する主体が、各地域の「地域活動支持力」をよく知り、それに働きかけるような活動を行うことで継続した地域活動が達成されることが考察された。

継続した地域活動のためのアプローチについては、住民自らによる誰が見ても正当な活動、NPOや行政など外部からの働きかけによる地域活動支持力を十分に把握した上での活動、様々な住民が居住する地域における間口を広げることを意図した多彩な活動など、活動や地域の特徴に応じて様々存在する。いずれの形であっても、地域活動支持力に応じた、地域活動支持力を育てるような働きかけを実施することが、地域に根づいた、地域住民による継続した地域活動に繋がるだろう。

今後は、地域活動の更なる活性化に向けて、地域活動と地域活動支持力のより詳細な関係や、地域活動支持力を直接把握する手法について、現場での事例から学び、よりよい手法を見出していくことが重要であると考えられる。

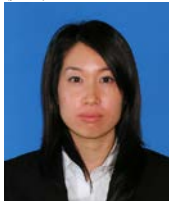
## 謝 辞

ヒアリング調査及びアンケート調査に際しては、多くの地域活動団体や地方自治体、自治会、住民の皆様にご多大なご協力を賜りました。ここに感謝いたします。

## 参考文献

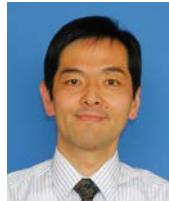
- 1) 国土交通省国土技術政策総合研究所、国土技術政策総合研究所プロジェクト研究報告・地域活動と協働する水循環健全化に関する研究、No.31、2010
- 2) 内閣府経済社会総合研究所、コミュニティ機能再生とソーシャルキャピタルに関する研究調査報告書、研究会報告書等No.15、資料編2、2005
- 3) 柳井晴夫・繁耕算男・前川眞一・市川雅教、因子分析-その理論と方法、朝倉書店、1990

伊藤嘉奈子\*



国土交通省国土技術政策総合研究所環境研究部河川環境研究室 研究官  
Kanako ITO

天野邦彦\*\*



国土交通省国土技術政策総合研究所環境研究部河川環境研究室長 工博  
Dr. Kunihiko AMANO

岸田弘之\*\*\*



国土交通省国土技術政策総合研究所環境研究部長  
Hiroyuki KISHIDA